図書名「君の膵臓をたべたい」　著者　住野　よる

出版社　双葉文庫

住所　広島県三次市君田町東入君 10361 番地 2　　TEL（0824）53－2008

三次市君田中学校３年　升元　紫苑（ますもと　しおん）

　この本は，主人公の男子高校生がクラスメートの女の子と病院で出会うところから始まります。彼女は残りわずかな命の中で，「共病文庫」と名づけた日記をつけていました。ある日，その日記を読んでしまった彼は彼女の病気を知ります。彼は彼女の病気のことに無関心をよそおいながらも，次第に彼女に引かれていきます。彼女は，家族以外で唯一病気のことを知っている彼を，自分が死ぬまでにやっておきたいことに巻き込んでいきます。「焼肉食べ放題」に「旅行」。周りの友達は，そんな二人のことが気になり始めます。それは，彼女がクラスの中でも目立つ存在であること，一方の彼は全く目立たない存在だからです。そんな二人が一見仲良く行動しているから周りには理解できないのです。彼はこれまで本としか向き合ってこなくて，人間と向き合うことができないまま成長してきました。しかし，彼女のおかげで人と向き合うことの大切さを知っていきます。それと同時に「命」についても考えるようになります。余命が告げられている彼女とそうでない自分。だけど二人に「死」は必ず訪れる。彼女がただのクラスメートなら，彼女の死はそんなに気にならなかったかもしれない。しかし，彼女のことを深く知った今は，彼女の死が彼の中で大きなものとなってしまっていく。人間に興味をいだくことで自分が一人ではないことにどんどん気付いていきます。私の心を射抜いたところはここでした。私は，普段から周りの人と真正面から向き合っているかなと考えさせられました。中学生活も残り数ヶ月となり，一緒に頑張ってきた仲間ともう一度真正面から向き合ってみようとこの本が思わせてくれました。それで仲間の新たな一面に気付くことができたら，さらに友情が深まることを期待して。